

発行日 平成23年1月1日

第39号

新年の御挨拶



院長 伊津野 脩

今月のトピックス

○平成22年4月より当院ではがん早期発見のため、新たにマンモグラフィー装置を導入いたしました。

近年、乳がん患者数が年々増加する傾向にありますので是非、一度検査することをお勧め致します。詳しくは健康管理課までお問い合わせ下さい。

半日コース：¥40,950
一日コース：¥64,050

○12月1日より、PACS（医療用画像保存通信システム）が運用開始されました。

放射線科

明けましておめでとうございます。

昨年度は大きな診療報酬の改定などが施行されなかったため、比較的安定した病院管理ができた年でした。また、最大の目標であった医療機能評価機構での再受審も無事に終了し認定されました。受審の際、院内・外の多くの皆様にご協力をいただきましてありがとうございました。

さて、今年度は介護保険制度や後期高齢者医療制度の見直しが行われ、大幅な負担増が予想されています。医療・介護へのサービスの向上がないがしろにされ、単なる国家財源に使用される可能性があります。一般の医療制度についても同様と思われますが、現在の不安定な政治状態では、何が起こるか予想さえ困難な状況です。

医療に携わるわたしたちは、どんな困難な医療環境になっても皆様のご健康をお守りするため最大限の努力をする所存ですが、皆様のご支援をいただかないと良質な医療・介護・健康管理などを実現できません。

年頭にあたり、皆様のご協力をお願いして新年の挨拶とします。

看護部長 高戸 幸子

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は看護部にとって大きな飛躍の一年となりました。当院初めての緩和ケア認定看護師の誕生に始まり、AMGワークアウト大会での優勝さらに病院機能評価受審では「看護サービスの質改善」において5段階評価で最高の5評価をいただきました。このことは研修や院内教育の定着、定期的な委員会活動、また、ワークライフバランスも推進など、日々実践している業務改善が評価された結果であると考えております。これからも看護サービスの質向上に向け安全で効果的な看護実践が展開できるよう努めてまいります。

さて、今年度は新人看護師を受け入れるための臨床研修が努力義務化されて2年目を迎えます。昨年は専任の指導者を中心に研修やグループワークなどを通し計画的な育成を進めてまいりました。看護実践能力には若干の個人差はあるものの、少しずつ根拠に基づいた看護が提供できるまでに成長したのではないかと考えております。今年4月にはすでに6名の新人看護師の入職が内定しております。昨年の経験を活かし実効性のある教育計画が立案できるよう取り組んでまいります。さらに、看護系大学生による初めての実習受入れや認定看護師の拡充など、今年も人材育成により一層力を入れてまいります。

新しい年もさまざまな取り組みを通し、地域に根ざした中枢病院として患者様やご家族の方々に信頼され安心していただける医療が提供できますよう努力してまいります。

今後ともどうぞ、よろしくお願い致します。

■病院理念

安全で確実なわかりやすい医療

■行動指針

1. 良質・適切・安全・公平な医療に全力を尽くします。
2. わかりやすい言葉で説明することを心がけます。
3. 患者さまのプライバシー・価値観・自己決定権を尊重します。
4. 良質の地域医療供給システムをつくり円滑な病院連携の充実に努めます。
5. 医療・福祉・保健を通じて地域に貢献します。



発行 白岡中央総合病院
発行責任者 伊津野 脩
発行者 広報委員会

発行日 平成23年1月1日



NST(エヌエスティ) って? ~栄養サポートチームにおける薬剤師の役割~

(第4回)

薬剤部

NST(栄養サポートチーム)の活動は、医師・栄養士・看護師・検査技師・薬剤師・言語聴覚士などいろいろな職種が関わっています。それぞれの職種の知識を合わせ話し合うことで、患者様の栄養をサポートしていきます。今回、私たち薬剤師がどのように皆様の栄養をサポートしているのかをご説明したいと思います。

入院中、点滴治療を受けられる患者様は非常に多いです。点滴治療ではそれぞれの病気の治療も行いますが、同時に栄養を摂取する手段でもあります。手術後や腸閉塞など、病態によっては1~2週間ほど食事摂取を制限し、腸を安静に保つ必要があります。このように必要な栄養量が充足できない場合には、エネルギー源や体の構成成分となる糖質・アミノ酸・脂質・電解質・ビタミン・ミネラルなどを点滴で補給します。

薬剤師は、注射の処方箋から必要な栄養素がバランスよく補充されているか確認します。また、点滴の水分量も適切な量が補充されているか確認します。水分が少ないと脱水症状になる恐れや、逆に多いと浮腫の原因になる可能性があるためです。

口から栄養を摂取できない患者様で、腸の消化・吸収障害がある方には、太い血管を介して高カロリーの栄養を補う、中心静脈栄養という方法があります。カロリーが高い輸液は糖分が多いため、細菌に感染する危険性があります。当院では、薬剤部が無菌的に高カロリー輸液を調剤しており、病院内の感染防止対策も行っております。

これからも患者様ひとりひとりの病態や、身体の機能にあわせた薬剤の補充により、栄養状態の改善につながるよう活動していきたいと思っております。



中央病院NEWSは、毎月1日に発行しております。トピックスやお知らせ事項、ドクターによるためになるコラムなどの掲載を今後も予定しております。皆様のご意見を反映して、よりよい紙面にしていきたいと考えております。ご意見ご要望などございましたら、意見箱を1階内視鏡室横のラウンジに設置致しましたので、ぜひとも私どもにお聞かせください。

広報委員会一同